

平成29年第11回弘前市教育委員会会議録

日時 平成29年7月28日(金)

午後3時00分

場所 岩木庁舎2階会議室3

◇議事日程

- 1 定足数確認
- 2 開会宣告
- 3 会議録署名者の指名
- 4 会期決定
- 5 議案の審議

議案第18号 平成30年度から使用する小学校「特別の教科 道徳」教科用図書
の採択について

- 6 閉会宣告

◇付議事件

議事日程に同じ

◇出席委員

1番 九戸 眞樹 委員、2番 前田 幸子 委員、3番 澤田 美彦 委員、
4番 佐々木 健 委員、5番 高木 恵美子 委員

◇説明のため出席した者の職氏名

教育部長 野呂 忠久、理事兼学校教育推進監 奈良岡 淳、教育政策課長 鳴海 誠、
学校指導課長 木村 文宣、教育センター所長 石川 みどり、
教育センター指導主事 後藤 光生

◇出席事務局職員

教育政策課総務係長 鳴海 貴幸

午後3時00分 開会

○委員長(九戸眞樹委員) ただいまの出席者数は5名で定足数に達しておりますので、
平成29年第11回弘前市教育委員会会議を開会いたします。

会議録署名者に2番前田幸子委員と3番澤田美彦委員を指名いたします。
会期は本日1日といたしたいと思いますがいかがでしょうか。
(「異議なし」の声あり)

○委員長(九戸眞樹委員) ご異議ないものと認め、会期は本日1日といたします。
本日の案件は、議案が1件となっておりますが、議案第18号は、審議の結果が当市と同じく中弘地区教科用図書採択協議会に加入している西目屋村教育委員会での審議に影響を及ぼすおそれがあることから、この議案の審議については、弘前市教育委員会会議規則第12条第1項ただし書きの規定に基づき、これを公開しないこととしたいと思いますが、いかがでしょうか。
(「異議なし」の声あり)

○委員長(九戸眞樹委員) ご異議ないものと認め、議案第18号は非公開で審議することといたします。

・議案第18号について

○委員長(九戸眞樹委員) 次に、議案第18号の審議に入りますが、先ほど決定いたしましたとおり、審議は非公開といたしますので、弘前市教育委員会会議傍聴規則第6条の規定により関係者以外の方は退席をお願いいたします。
(関係者以外退席)

○委員長(九戸眞樹委員) それでは、議案第18号 平成30年度から使用する小学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択について、事務局から説明をお願いいたします。

・概要説明

○学校指導課長(木村文宣) 提案理由としては、地方教育行政の組織運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、平成30年度から使用する小学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択をするものです。中弘地区教科用図書採択協議会より報告を受けた研究調査の経緯について説明します。

研究調査の経緯についてですが、5月24日(水)第1回中弘地区教科用図書採択協議会において決定されました、採択基準、規約等に基づき、採択の事務処理を進めてきました。

教科書予備展示会は、6月12日(月)～23日(金)弘前市総合学習センターを会場に開催し、215名(うち一般の方は14名)が参加しました。学校からは、学校調査報告書というかたちで記入されたものを、必要に応じて勘案、参考としました。

研究調査会は、6月29日(木)から1泊2日の日程で行い、研究調査報告書にま

とめております。

7月12日(水)第2回中弘地区教科用図書採択協議会において、平成30年度から使用する小学校「特別の教科 道徳」教科用図書が選出されました。

続いて、この度採択協議会により選出された教科書について、報告のあった特色について指導主事より説明いたします。そのほかの教科書については、研究調査報告書をご覧ください。

・協議会審議内容説明

○教育センター指導主事(後藤光生) 研究調査は8社について4名で行いました。採択協議会から選出された教科書は、学研教育未来です。

(調査研究報告書について説明)

○委員長(九戸眞樹委員) ただ今の説明に際して、ご質疑等ございませんか

○2番(前田幸子委員) 本文とノートに分かれているものと、一冊になっているものと、児童や指導者にとってどちらが使いやすいかという点については、どのような意見があったのですか。

○教育センター指導主事(後藤光生) 現場の意見としては、分冊について記録に残るの
で評価しやすい点、宿題にできるなどの意見がありました。一方で書かせることの指導の難しさがあるのではとの意見もありました。

○2番(前田幸子委員) 本のサイズの違いについてはどのような意見があったのですか。

○教育センター指導主事(後藤光生) 見やすいという意見もありましたが、大きすぎるものは扱いにくい、という意見もありました。

○3番(澤田美彦委員) 道徳の教科化について、国語の授業と同じように、心情を読解するためのものなのか。正しいことを判断する力をつけるためのものなのか。多面的な見方をすれば、善悪についても、その人の背景などにより判断ができないこともあると思う。

あと、長島茂雄などはみんな知っていると思うが、偉大な科学者などの中には小学生には難しい者もいると感じた。いずれにしても、各社違いはあまりないと感じた。

○5番(高木恵美子委員) 学研は見やすいと感じた。考えさせる部分もあると感じた。道徳を科目とすることについて、白黒はっきりさせるものではなく、両者言い分を踏まえたうえで、自分の意見を持つべきものと思う。

○4番(佐々木健委員) 学研は、他社と違い最初に徳目が出ていないのがいいと感じた。金の斧銀の斧など、ストーリーを途中でわざと切ることにより、子供自身に考えさせる余地を残すなど、工夫されていると感じた。

○2番(前田幸子委員) 学研は他社に比べ、字が細くやや見難いと感じられた。

○1番(九戸眞樹委員) 学研がユニバーサルデザインの観点から、色地の上の文字が細くて見辛いと感じる部分がある。

- 教育センター指導主事（後藤光生） カラーユニバーサル観点から意見のあったことのメモは残っています。
- 2番（前田幸子委員） 学研の見開きの文章は、小1から4年は誰の書いたものかわからないが小5,6年は偉人が書いているものを載せているのは、なぜなのでしょう。
- 教育センター指導主事（後藤光生） 確認しておりません。
- 2番（前田幸子委員） 各社、オリンピックに偏りすぎなのではないか。オリンピックに偏っていると、年を追う毎に古くなってしまう。
- また偉人について世界各地から選ばれているか、偏りがないかについて、検討はされているのでしょうか。
- 教育センター指導主事（後藤光生） 各社、偉人について、様々な国から選ばれています。学研については、オリンピックに関わる教材ではあっても、例えば、石川佳純選手は、様々な言語を覚え、交流したいと努力している取扱いで、内面を考えさせるようにしています。
- 2番（前田幸子委員） 学研について写真が豊富に活用されているのと、グラフも効果的に用いられていて良いと感じました。
- 読み物的なものが多いと感じたが、逆に学担が工夫する余地がある部分でもある。他社は価値を押し付けするようなものが多いと感じました。
- 学担には、指導する際の技術的な部分について、様々な展開ができるよう、研修等で教科書の使い方を話合っしてほしいと思います。教科書を使うよさを出すためには、先生方の個性を生かし、子どもたちの様子に応じて柔軟性が必要でもあるので、担当指導主事の方には道徳科の講座を考えていただければと思います。
- 3番（澤田美彦委員） 命について扱いが少ないように感じました。極端な話ではありますが、動物を殺してはいけないのか、それとも食べるためには殺してもいいのか。命というのを教育の中、道徳ではどのように考えているのか。命について考えさせる必要があるように思っています。
- 教育センター指導主事（後藤光生） 道徳四つの視点で、「自分に関すること」、「他者との関わり」、「社会との関わり」、「自然や崇高なものとの関わり」とある中で、自然や崇高なものとの関わりの中で命が扱われます。どの教科書においても、他の生き物を殺して人間が生きているといった視点で深く踏み込んだ内容のものはありません。
- 3番（澤田美彦委員） 命とか死ぬとか考えることについて、非常に難しい問題だと思います。世の中にはいろんな価値観があり、その中でみんな生きているんだという、自分の知らない世界にはどんな人がいて、いろんな考えの人がいるということ。他人の違う考え方があり、自分の考え方もあるのだということを知る必要があると思います。道徳の教科により、同じ考えの人間をつくるような授業にしないでほしいと思います。
- 教育センター指導主事（後藤光生） 思いやりとか友情とか教えるのではなく、その価値について一生懸命考える子供たちを育てようという方向になっています。
- 1番（九戸眞樹委員） 授業の仕方について、教科書で扱う意味とか意義とか進め方に

ついて伺います。

○教育センター指導主事（後藤光生） 各社とも学校生活を考え、友達のこと、自分のことなどから始まり、後半に自然や崇高なものを持って来るなど、配列が決められています。ただ取り扱う順序については裁量に任される部分となっています。

○1番（九戸眞樹委員） これは一年でやれる量なのでしょうか。多いと感じますが。

○教育センター指導主事（後藤光生） 1,2年生が19の内容、3,4年生が20の内容、5,6年生が22の内容を一年間でやることとなっています。

○1番（九戸眞樹委員） 文教は四角のマス目になってますが、学研は大きな枠にしています。子供の中には、マス目を埋めるのが苦痛だったり、ラインに書くのが大変と感じる子がいると聞いたりしたことがあるので、自分なりに多くても少なくても、大きくても小さくても、自分の気持ちを自由に書けるという配慮があっていいと感じました。

あと、この教科書を作るのに、青森県の人がどれくらい関わっているのかという部分が気になっています。地方の話題をどのように盛り込んでいくか大切な面と考えます。先進的な授業をする人を輩出するという必要もあると感じています。

○2番（前田幸子委員） 表紙について、日文だけが子供たちの写真を使っているが、プライバシー的な面で配慮はされているものなのでしょうか。

○教育センター指導主事（後藤光生） 東京での説明会では、プライバシー的な説明はありませんでしたが、この表紙の良さをアピールしていました。

○5番（高木恵美子委員） 保護者的な立場から道徳というと、人としてという部分を教えるものと思っているが、相手のことを思う気持ち、いじめなど無くしていくということから教科となったのかと思います。いじめを無くすることを目標にがんばってほしいと思います。

○2番（前田幸子委員） みんなで研究して柔軟な使い方をしてほしいと思います。

○委員長（九戸眞樹委員） 他にご質疑等ございませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（九戸眞樹委員） それでは議案第18号を可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（九戸眞樹委員） ご異議ないものと認めます。よって、議案第18号は可決されました。

○委員長（九戸眞樹委員） 以上で、本日の会議に付議された案件の審議はすべて終了いたしました。これもちまして、平成29年第11回弘前市教育委員会会議を閉会いたします。

午後4時7分開会

会議録作成者

弘前市教育委員会

教育政策課総務係長 鳴海 貴幸

弘前市教育委員会

委員長 九 戸 眞 樹

署名者 前 田 幸 子

署名者 澤 田 美 彦